



埼玉大学教養学部 同窓会だより

1991年
10月21日発行

埼玉大学教養学部
同窓会事務局

設立総会開催される

去る七月二〇日、埼玉大学教養学部同窓会の設立総会が埼玉発展の象徴大宮ソニックシティのパレスホテルにおいて開催されました。

初めての総会にもかかわらず、在

職退職合わせて二八名の先生方等（特別会員）をお迎えし、卒業生一三六名と在校生七名、計一六一名と多数の方が参加されました。

当日は、まず、設立総会が開催され、発起人を代表して酒井憲太郎氏（一九七〇年日文学卒）から同窓会設立の趣旨が説明され、続いて議長に選出された櫻井雅英氏（一九七四年マスコミ卒）の進行の下、会則案の承認と役員を選出とが審議され、満場の拍手をもって決定されました。（会則は5ページに掲載）

引き続き、隣室で記念パーティが賑やかに開催され、酒井新会長の挨拶の後、来賓を代表されて小松寿雄学部長からご祝詞を、平田栄名譽教授には乾杯の労をとっていただきました。

会場では、十年ぶり、二十年ぶりの再会をなつかしむ卒業生と先生方

同期生や同じコースの卒業生同士の談笑の輪が幾重にも広がり、絶えることなく続きました。最後に教養学部在校生代表に卒業生一同から記念品としてパソコン用のハードディスクが贈呈され、無事盛況のうちに終えることができました。

ご多忙の中お越しいただいた先生方を始め、皆様の並々ならぬ御協力に感謝申し上げます。また、連絡が届かず出席できなかった卒業生の方には、深くお詫び申し上げます。次回はできるだけ多くの方へ連絡したいと思っておりますので、是非ご参加ください。

出席された先生方のお名前は次のとおりです。

（アイウエオ順、敬略称）
新井壽郎、岩本泰波、大沢正昭、岡崎勝世、小川瑞穂、霧生和夫、小菅稔、小松寿雄、佐藤敬三、関口順、高山巖、田代脩、西真平、平田栄、松田稜、宮原朗、山中信彦、（事務長）相馬嘉市

役員一覧

会長 酒井憲太郎（70日文学）

副会長 武井尚（70日文学）、坂口明徳（72英）、櫻井雅英（74現）、池田誠（75システム）、石田義明（75国）、大和田英夫（78歴）、鈴木肇（81仏）

常任理事 深澤建次（69現）、榎木誠（70中）、飯塚好（73文人）、藤田総平（74独）、小熊信吉（75地）、岡田道程（76哲）、渡辺司（89米）

理事 石井民子（69日文学）、関根増男（69文人）、六戸一晴（75英）、平井康和（75仏）、松岡真知子（77現）、小篠一英（79現）、貝塚和美（79歴）、吉野晃（80文人）、原善（80日文学）、渡辺育雄（80日）、八木橋吉則（82地）、増淵勝人（84システム）、萬年拓郎（85国）、西山明人（86中）、秋山茂美子（88国）、沼尾優美（88哲）、井上宏（89地）、山中義一（89米）、石川明（91コ）、竹田信夫（91システム）

監事 稲垣徹（71独）、兼子順（77日文学）

同窓会会長挨拶



酒井 憲太郎

一九九一年七月二〇日、埼玉県大宮市のパレスホテル大宮で埼玉大学教養学部同窓会が設立されました。一九九〇年三月の第一回卒業生以来、二〇年以上経過しました。既に卒業生は二千五百名を越えています。この間、

何度か同窓会を作ろうとの試みがありました。これまでの経過を報告して挨拶とします。今回同窓会設立に尽力し役員として務める皆さんが初めて各コースの代表として集まったのは一九九〇年三月二四日でした。この集まりは小松教養学部長、宮原図書館長らをはじめとして諸先生方の

ご協力で成功しました。場所は埼玉大学学生会館でした。集まりでは、大学紛争当時のことなども話題となりましたが、ベルリンの壁が崩れる世界の流れの中では緊張を強いるものではありませんでした。話し合いの中で会の名称は名簿作成準備会となりました。同窓生の氏名、所在を明らかにするのが最初の仕事と皆が決めたので、名称は同窓会準備会としました。以後六月二日、七月二一日、十一月一七日と会合を重ねて名簿の準備を進めて来ました。

年が明けて今年一九九一年二月一六日の会合で、名簿作成のめどがついたので同窓会設立の準備に入りました。設立の発起人をお願いする係を名簿の係と別に設けたのです。同時に財政を確立するため、準備会の名称で銀行口座も開きました。三月一六日の会合では規約作成が論議されました。また、この時、設立総会は七月に開こうとの合意が得られましたので、以後毎月一回会合を開くことにしました。そして三月二六日教養学部卒業生の謝恩会に、同窓会準備会を代表して二名が出席して祝辞を述べ、同窓会の宣伝をしました。

教養学部長挨拶



小松 寿雄

七月二〇日、同窓会が発足した皆さんの同窓生が集まって、大変楽しい会が開かれました。開催に向けて、努力された方々に、心から感謝いたします。

この場をお借りして、教養学部が現在置かれている状況について、一言述べたいと思います。今年七月、

大学設置基準の大綱化が決定され、教養過程における一般教育は、それぞれの大学の自主性にゆだねられることになりました。たとえば、体育の実技は、どんな大学に入っても必ず課せられてきましたが、今後は大卒次第ということになります。教養学部では、教養学部の学生は、一年に入学したその時点から、教養学部で責任をもって教育できるよう、新しいカリキュラムを検討中です。

この設置基準の大綱化に伴って、一般教育を担当してきた教養部の組織の改廃が、全学の課題となり、教養学部としても、積極的に対応せざるをえない状況を迎えております。このような訳で教養学部の組織にも、名称を含めて検討する時期がやってきたように思われます。しかし、どのように変わろうとも、本学部のよき伝統は、必ず守ってゆくつもりです。

終わりに同窓生各位の御健康と御発展を祈ります。

この時、新卒の会員が会場で二〇数名入会し入金してくれました。四月二〇日の会合で、設立総会に提出する同窓会会則案を決め、同窓生に送る「同窓会設立のご案内」を了承しました。五月一四日酒井、櫻井、石田の三名は学部長室で小松学部長、相馬事務長と会い、同窓会設立について報告し、今後の協力をお願いし、快諾を戴きました。こうして同窓生の熱意で同窓会は誕生しました。今後立派な会に成長していくために不可欠な皆さんのご協力を是非お願いします。

同窓会の創設

に当って

平田 栄



この度埼玉大学教養学部同窓会が創設されましたこと、慶祝の至に存じます。第一回生の卒業以来已に二十有余年、今始めてこの会を作るには当然多大な困難があります。それを克服して今日の運びをもたらした多くの諸君の献身的努力に心から敬意を表します。最初の卒業生を送り出した直後に大学紛争が起こり、同窓会設立の準備が実るに至らず、それがずっと心残りであった小生にとって誠に嬉しい限りです。同じ学窓を出た者が一つに結び合う会のあることは、卒業して社会の荒浪の中に在る者にとって、常に心に潤いと楽しみを与えてくれる確固たる拠り所を持つこととなります。同窓の友

とは生涯利害を離れ純粹な気持ちで交わり合うことができます。孔子は道を行い徳を修める基本を忠信を主とするにおいています。忠とは純粹に人の為めを思う心であり、信とは偽りなく変わらぬことであり、常に忠あることがそれになります。同窓の友こそ無理なく自然に忠信を主とすることのできるものです。どうか終生変わりなく純粹に友の為に思い、心から話し合い助け合って行って下さい。

(埼玉大学名譽教授)

名簿作成準備会

のころ——雑感——

深澤 建次

小松先生(日文)、宮原先生(独文)らの呼びかけで、教官有志五、六名と卒業生有志二〇名前後が母校の学生会館に参集し、教養学部の同窓会について最初に懇談したのは、ちょうど学部が発足して四半世紀を経た一九九〇年三月であった。そこでとりあえず卒業生名簿を作成する主旨で名簿作成準備会が結成された。たまたまO・B.の一人で教養学部に勤

務していることから、私がこの名簿作成準備会の代表を務めることになってしまった。偶然とはおそろしいものである。けれども頼りない代表を酒井さん、櫻井さん、石田さん、武井さんをはじめとする多くの有能なスタッフたち、そして多忙にもかかわらず献身的な尽力をしてくれた各コースの責任者のひとたちが十分に補ってくれた。おかげで九一年二月、名簿作成の任務をおおかた無事に終えることができた。私などより企画力、そして実行力のはるかに勝る彼らに任せただけだが、今後の活動は能率的に進行するのは明瞭であったので、私は表舞台から退くことにした。三月ごろ同窓会の設立総会を大宮のホテルで実施すると聞かされたとき、正直言って彼らの実行力に驚いた。多少の不安も感じた。けれども七月二〇日の総会が、盛大にそして成功裏に舉行されたのは、出席者の一同が認めるところであろう。あらためて幹事のひとたちに敬意を表せざるをえない。そして同時に教養学部O・B.の有能さを思わないわけにいかない。

埼玉大学教養学部教授

一九六九年現代文化課程卒

設立総会に参加して

肥田 安弥女

先生方や諸先輩・同級生の方々に、お会いできるのを楽しみにでかけたが、卒業以来すっかりご無沙汰しているの、見知らぬ中にいるようので、最初は緊張していた。

しかし、パーティーでは、先生方は以前と変わらぬお声で話しかけて下さり、同級生ともすぐにうちとけて、フレンドリーな雰囲気の中でなつかしい時を過ごせた。

不思議なのは、在学中はほとんどなじみのなかった方でも、同窓というだけで親しくざっくばらんにおしゃべりできたこと。

同級生は一〇余名参加していたが、さらに同級のクラス会を、という話で、先日早速第一回目を開催した。

連絡係を引き受けたおかげで、皆から電話や手紙をいただいた。二〇年近くの月日を越えてのコミュニケーションは、なんとなく心温まるもので感無量。そのような機会を与えてくれた同窓会に感謝し、今後の発展をお祈りします。

(一九七五年日本文化卒)

同窓会名簿の発刊について

—現状とお願い—

昨年来、多くの先生方と卒業生に御協力を得ながら、目下名簿発刊の準備を進めております。しかし残念ながら、まだ相当数の卒業生の連絡先が不明です。これらの方々には同窓会の発足すらお知らせできない状況です。六〇七ページに住所等が分からない方のリストを掲載しました。お心当たりの方はその会員（卒業生）の氏名、卒業年、コース、住所を、至急同窓会事務局まで葉書にてご連絡ください。実家の連絡先でも結構です。これまでコース別、学年別にそれぞれ調査を行って参りましたが、限界にきております。御協力をお願いします。

また、卒業生の皆様から確認を得て掲載したいと考えております住所等のデータにつきましても、まだ多くの方から御返信をいただいております。発刊に際し、空白だらけの名簿だけは何としても避けたいところです。お手数ですが、既に、郵送しましたアンケート葉書に至急御記入の上、投函くださるようお願い申

上げます。お手元がない場合は、官製葉書等を代用し、氏名、卒業年、コース名、現住所、電話番号、勤務先（できれば部課名）、勤務先電話番号を記載して、

〒三三八

浦和市下大久保二五五

埼玉大学教養学部気付

埼玉大学教養学部同窓会事務局宛

に御送付ください。

なお、名簿の掲載につきましては、特に不都合な箇所がありましたら、御連絡下さい。

同窓会名簿は、会費を納めた会員の方のみに頒布いたします。



御協力をお願い

—まだ、手続きをお済みでない方へ—

埼玉大学教養学部の卒業生は、全員が同窓生・会員となります。しながら、この会の設立に御理解と御協力を賜わり、会費を納入された方は九月末現在まだ約六〇〇名と、連絡を差上げた卒業生の過半数にも達しておりません。

会費がやや高すぎるとのご批判も頂戴いたしました。しかし、最初に同窓会を設立するに当たり、自己資金は全くありませんでした。同窓会設立を広く卒業生の皆様にお知らせするだけでも、膨大な諸経費がかかります。そのため発起人の方々には賛助金として会費の先払いをお願いしなければなりませんでした。これまでの通信費やこの「同窓会だより」の印刷代、郵送費も今まで御入金下さった方々の貴重な会費から捻出されております。スポンサー等は一切ありません。

準備会の段階から今日に至るまで、卒業生有志と現在の役員は全くのボランティア精神で活動を続けて参りました。交通費も通信費もすべて自

前です。同窓会名簿のデータを積み上げる途方もない時間と労力は無償としても、連絡の諸経費のほか、出版物の印刷と発送は外注せざるを得ません。本来ならば卒業生全員に名簿を配布したいところですが、できない理由がここにあります。

このように、同窓会は財政的にはまだまだ厳しい状況下に置かれております。財政基盤を安定させ、継続的な運営が行われ、かつ活動範囲を広げるためには、一人でも多くの会員のご協力が望まれます。何卒御理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご賛同いただけます方は、次の要領にて会費を納付下さるようお願いいたします。

会費 一万円（三年分の会費および名簿代）

振込先

（郵便振替）口座番号

東京九一七〇〇四二二

加入者名「埼玉大学教養学部同窓会」

（なお、卒業した西暦年とコース名も必ず御記入ください）

埼玉大学教養学部同窓会会則

第1章 総則

第1条 本会は、埼玉大学教養学部同窓会と称する。

第2条 本会は、會員相互の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を達成するために必要な事業を行う。

第4条 本会の事務局は、埼玉大学教養学部内に置く。

第2章 會員

第5条 本会は、正會員、准會員、特別會員をもって組織する。

1. 正會員は、埼玉大学教養学部の卒業生とする。

2. 准會員は、埼玉大学教養学部在學生とする。

3. 特別會員は、埼玉大学教養学部の専任の教官、および専任の教官であった者、理事会で認められた者とする。ただし、正會員該当者を除く。

第3章 役員

第6条 本会に、次の役員を置く。
1. 会長1名 2. 副会長若干名
3. 常任理事若干名

4. 理事若干名 5. 監事2名
第7条 役員は、次のとおりとする。

1. 会長および副会長は、総会において會員の互選により正會員の中から選出する。

2. 常任理事は、理事の互選により選出する。

3. 理事は、総会において會員の互選により正會員の中から選出する。ただし、原則として各コース毎に1〜2名または各卒業年度毎に若干名選出されるものとする。

4. 監事は、総会において會員の互選により正會員の中から選出する。

第8条 役員は、任期は2年として、再任を妨げない。任期満了の場合、後任者の選出までその任務を行うものとする。
第9条 役員は、次のとおりとする。

1. 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会

長事故あるときは、その任務を代行する。

3. 常任理事は、常任理事会を構成し、会務を審議し、会務を分担処理する。

4. 理事は、理事会を構成し、重要会務を審議する。

5. 監事は、会計事務を監査する。

第4章 会議

第10条 本会に、次の会議を置く。

1. 総会 2. 常任理事会

3. 理事会

第11条 総会は、全會員で構成され、

定時総会および臨時総会を置く。

定時総会は、年に1回、会長がこれを開催する。臨時総会は、

会長が必要と認めるとき開催することができる。

第12条 常任理事会は、会長、副会長、常任理事で構成され、会長

が必要に応じて招集し、会務を審議し、会務を分担処理する。

第13条 理事会は、会長、副会長、常任理事、理事で構成され、会長が必要に応じて招集し、重要会務を審議する。

第14条 各会議において議決を行う場合には、出席者の過半数の賛成を必要とする。

第5章 会計

第15条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。

第16条 会費は、正會員が納入する。会費の額等は、常任理事会の議決を経て、細則に定める。

第17条 会計報告は、監事の監査を得、常任理事会の審議を経て、総会に報告される。

第18条 会計年度は、毎年四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第6章 補則

第19条 會員は、その住所、氏名、職業、勤務先を変更したときは、その都度本会事務局に連絡するものとする。

第20条 本会則執行に必要な細則は、常任理事会の議決を経て、別にこれを定めることができる。

第21条 本会則の改正は、総会の議決による。

附則

本会則は、平成三年七月二〇日より施行する。

住所等連絡先がわからない方一覧

- 一九六九年卒
 - (文人) 長谷川淳一、(国) 伊藤洵
- 一九七〇年卒
 - (日文) 加藤延宏、(英) 亀井秀治、(米) 駒場正広・山本怜・若林哲男、(独) 藤田二郎・堀行繁、(仏) 伊藤栄三、(現) 市川肇・大井豊・諸星公勇、(国) 小山田明弘・上村洋一・山口道夫
- 一九七一年卒
 - (文人) 寛美晴・小室裕昭・嶋田啓子・高梨(藤代)美代子、(日文) 青島由明・金久保伸一・佐藤恵子、(中) 竹中文男、(米) 北原幸男・小林正雄・山口孝、(仏) 佐竹雅子・菅原四郎、(現) 小渕修一・仲西(島田)礼子・高野幸男・水池照美・森塚美枝子、(国) 境井庄三・飛沢純男、(自) 阿部和男・清水信彦・深谷猪次郎・前田豊
- 一九七二年卒
 - (文人) 磯部満・鈴木良範・原木真(日文) 中川信・水谷まち子、(中) 岩淵博、(英) 樋口幸子、(仏) 小沢幸男、(現) 池田正晴・佐藤正則・兵藤秀明・山岸美昭・吉
- 原久雄、(国) 江藤幸作・大野耕一郎、(システム) 永井章司・松崎保美、(自) 秋山透・神山久男・木村広二・駒沢昭政・沢田直人・下川昭三・時枝良次・夏莉裕子
- 一九七三年卒
 - (哲学) 西田修一、(文人) 沼倉哲夫、(歴) 石井純・吉田共男、(日文) 板橋久夫・柏木高行・小関文夫、(中) 小池隆夫、(米) 穂刈佐代子、(現) 薄井謙一・大里康雄・清水茂則・高木俊夫・松原等・湯沢民義、(国) 板本利行・塩本昇・田口常温・楢貝良・船橋和男・森敏郎・伊藤昌賢、(自) 石島利男・内田誠二・大島章男・尾上友章・後藤則道・多辺田三郎・野田坂博伸・星野富夫・山下保治
- 一九七四年卒
 - (哲学) 小林正嗣・佐々木裕一、(文人) 角田正英、(歴) 大野徹・鈴木由紀夫、(日文) 岩本重雄・永山利勝、(現) 坂村佳子、(システム) 成田透、(自) 内垣澄子・大川哲夫・大沢徹・尾形義夫・角口和憲・兼子俊一・小林昭仁・土屋立行・
- 伏脇祥二・松末光弘
- 一九七五年卒
 - (文人) 嶋田健・米村淳、(歴) 斎藤邦子、(日文) 小松治生、(中) 羽賀倫子、(米) 石川次郎、(仏) 石井啓造・佐々木菊雄・出口丈人、(現) 井上雅春・梅沢隆・小倉洋・佐藤典教・曾根原守・鶴田博信・長谷川肇、(国) 佐藤秀敏・吉田隆、(自) 石井正一・内垣雄幸・浜浦秀行
- 一九七六年卒
 - (哲学) 滝紀夫・羽入辰郎、(文人) 千葉秀一、(地) 石坪幸夫、(日文) 五十嵐(関塚)直子・堀田菜苗、(中) 浮田芳洋、(仏) 伊藤文雄、(国) 岩渕功・橋本哲一・宮城利行・渡辺国久、(システム) 落勝之・齋田克己・丸山郁夫、(自) 国分真一・島津正樹
- 一九七七年卒
 - (文人) 大宮文男・野口正二、(歴) 番匠国男、(日文) 松岡裕治・丸山ひかる、(英) 藤谷義昭、(現) 市川克己・田中誠・星野明夫、(国) 中島和人・中山貞・浜中一郎・古市茂・村田昇・毛利俊子、(システム) 黒田弘、(自) 新井守・嘉数秀一
- 一九七八年卒
 - (文人) 掛飛吉史・矢野(栗野)今日子、(歴) 中込さち子、(地) 宮下修、(日文) 伊藤宏晃、(中) 正垣和夫、(英) 関輝雄、(国) 高橋喜幸・玉野雅登、(システム) 塚田哲慈・安間哲夫
- 一九七九年卒
 - (哲学) 千田基嗣・滝口幸男・山本修也、(文人) 石垣信也・福田(小林)久乃・広谷(白井)めぐみ、(歴) 松橋文、(英) 堂野前尚子、(米) 泉尾護・吉村あつ子、(現) 佐藤(石居)恵美子・斉藤健夫・坂本久美子・高橋幸市・塚越晴夫・福留真治・堀内健二・村松佐保子・山内敬、(国) 鈴木裕・高山英男・竹田剛信・文野由紀、(システム) 萩原隆一・小林知久摩・野谷昭男・吉田百子、(自) 笠井研司
- 一九八〇年卒
 - (文人) 長谷川心一・岩井健司、(歴) 岸本次司・斎藤俊郎、(日文) 井上真澄、(米) 鎌上澄男、(現) 飯塚高行・高山敦・竹本忠司・月原貴子・前田格・増田和則、(国) 天野里司・小林卓敏・竹内一成・野村徹・渡部晃也、(システム) 加藤勉・野沢成芳・原田丈士・

和賀隆、(自) 小林和男・横溝裕朗
一九八一年卒

(哲学) 秋山秀一・岸正通・清水和宏・高橋裕、(文人) 宗立人、(日文) 荒山広美・石川健介・大野恭代・小林摩利子・高橋敏朗・藤本賢一・山洞博参・山本創太、(英) 大沢敬・柳沢裕、(米) 遠矢兼明、

(独) 添野俊一・湊義典、(現) 岩瀬隆・小松真生・笹岡清・丸山真一・宮本一人、(国) 清水小波・山本克彦、(システム) 表浩行・滝本滋・横田雅志
一九八二年卒

(哲学) 熊谷瑞彦、(文人) 佐久間功、(歴) 山崎幸一、(日文) 能登谷良毅・本宮広、(現) 除川哲朗・須藤明・中野正久・三好雅昭、

(国) 神沢靖・菊池利雄・渡辺信裕、(システム) 内藤衡一郎・中島誠・溝上啓智郎、(自) 佐藤幸雄
一九八三年卒

(哲学) 小沢裕・斉藤郁夫、(文人) 横山(川村) 裕子、(日文) 海老原智子・佐藤貴裕・砂川貞次・竹安克哉・柳沼久裕、(英) 大塚恭司、(米) 阿部公子、(現) 池田進・押久保隆・駒野英史・桜田雄幸・重野幸夫・須賀隆司・館野功・満武純・

山本彰子・横山庸子・吉村功、(国) 上山勉・榎本俊也・角田隆一・小村啓之・桜井敦・菅野隆・田中慎一・丹羽信彦・原山かをる・松原雅之・箕輪浩徳、(システム) 岩元剛・菱谷隆二、(自) 大泉範次・鍛冶俊樹・神田正人・岸本福子
一九八四年卒

(哲学) 古賀豊・白井晃・中山恒之輔・藤原慎太郎、(文人) 鈴木真理子・宮本みどり、(地) 向井明子、(日文) 網野環、(中) 荒川恒一、(現) 重松義人、(国) 木谷亨・斉藤和・志村直宏・細野幸隆・和田照幸、(システム) 中根博昭・平松尚

(自) 峯田淳
一九八五年卒

(文人) 稲垣達也・坂口勝博、(日文) 田村啓子、(米) 桑川和久、(現) 椎名誠・山本和彦・山本貢市、(国) 花澤喜久雄・福田修、(システム) 会田浩・山田治彦
一九八六年卒

(文人) 古屋(小松) 真理・渡辺裕一、(歴) 三田昌彦、(地) 成田裕、(日文) 高木一雄、(英) 武藤一幸、(米) 江田慶彦・鷲尾誠、(現) 村山(関根) 典子、(国) 遠藤勝信・鈴木聡・滝満裕・長島政行・藤田裕

義・水上俊二・宮部徹・山田英雄、(システム) 遠藤順一・佐藤香・田中泉三
一九八七年卒

(文人) 小島千樹・中塚玲子、(歴) 浅見哲一・中山知子、(日文) 下山栄子、(米) 酒井祐三、(現) 新田正徳・出田和津枝・岩木真理子・上村行延・柏崎敬・金子貴幸・児島利治・米谷克浩・小和田徹・柴崎康彦・清水信行・鈴木敦詞・鈴木良典・須崎敏明・高橋比呂登・滝沢茂実・田島みゆき・館野裕・田中博・友末典靖・中島浩明・福田伸介・槇島恵子・松本浩美・森本真由美・家亀比佐代・柳康紀・山口聖子、(国) 甲斐照章・甲斐秀樹・斎藤功・田島照久・横山(松村) 明美・横山和広・吉岡妙子、(システム) 市川和雄・岩淵浩・川瀬恵美子・小出勇、(自) 竹岡宣博・山口知巳
一九八八年卒

(仏) 岡野千晶
一九八九年卒

(哲学) 渡邊浩、(文人) 大下美佐子・野末順子、(歴) 渡辺純子、(日文) 佐藤由紀子、(米) 竹迫志、(現) 小林一法、(国) 内海孝至・黒沢淳・ゴンザレス・ハムスマ

ルタ・パトリシア、(システム) 中澤保夫
一九九〇年卒

(哲学) 桐野好寛、(歴) 荻原涼子、(日文) 伊東真紀子・稲付茂・川守田広子・新藤守治・園田博文・野澤由美・皆川晴代・宮崎陽子・山根久治、(現) 瑞慶覧勝、(国) 井上信次・蔵富知規・下蘭康幸・須佐美和也・田中一正・田中祐子・小林哲也・羽鳥一穂、(自) 金子由美・榎原和久・生井治
一九九一年卒

(日文) 水澤雄、(歴) 山本倫弘、(システム) 外館光則、(自) 小林博

この一覧は、一〇月七日現在のものです。へゝ内は旧姓です。その後判明された方、また、結婚等で名字が変わった方も、一部そのまま掲載されています。この外、表記事項に誤りがあるかもしれません。お許し下さい。
なお、お心当たりの方は、四ページの記事の要領で、事務局までご連絡下さい。

事務局だより

同窓会を作ろうと準備会が始まったのが昨年の初めでした。以来一年数か月、ほぼ一か月に一回の割合で会合を重ねて参りました。

第一回の設立総会が無事済んだのも束の間、名簿の作成や今後の会の運営をめぐって既に二回の理事会が開かれました。卒業生の所在を尋ねて、北海道から九州まで連日電話による調査で皆少々疲労気味ですが、名簿発刊まではと頑張っております。今回始めて同窓会の存在を知った方々には、これまで住所が分からず連絡が遅れましたこと、ご容赦ください。今後末長く皆様の手で育て発展させていただくようお願い申

名称等の募集

同窓会の名称についての御意見をお寄せください。今のまま「埼玉大学教養学部同窓会」でよいのか、別の名称をつけるか、よいアイデアをお聞かせください。

また、この「同窓会だより」も名称が欲しいと考えております。素敵な名前を考えて、同窓会事務局にこ

し上げます。またこの間、様々なご声援やご指摘あるいはご批判を頂戴いたしました。貴重なご意見として今後の活動に活かして参ります。

今後の予定ですが、まず同窓会名簿の年内刊行を目指し、来年三月に新たな同窓生を迎え入れた後、第二回の総会開催を予定しております。「同窓会だより」も原則として年一回の発行を考えております。またこれとは別に、埼玉大学教養学部同窓会としてのパソコンのネットワークシステムを作り、在学生も含め会員相互の情報交換の場を提供することも検討しております。これに限らず、良いアイデアなどがありましたら、是非ご意見をお寄せください。お待ちしております。

連絡ください。

本紙も次号より会員からの「声の欄」を新しく設けたいと考えております。字数は四〇〇〜六〇〇字程度。同窓会設立のこと、学生時代の思い出、近況などテーマは自由です。宣伝を兼ねた近況報告も大歓迎です。投稿をお待ちしています。(封書に、埼玉大学教養学部同窓会事務局「同窓会だより」編集部と記入。)

お問い合わせ 連絡等は……

同窓会事務局にはまだ専用の電話がありません。また、常駐で事務を担当する者もおりません。当分の間、お問い合わせや連絡は文書にてお願いします。御不便をおかけしますが御協力の程をお願いします。

なお、会費等の送金には専用の郵便振替口座が設けられていますので、そちらを御利用下さい。

(同窓会事務局)

〒三三八

浦和市下大久保二五五

埼玉大学教養学部気付

埼玉大学教養学部同窓会事務局

(郵便振替口座)

東京九一七〇〇四二二

加入者名「埼玉大学教養学部同窓会」



編集スタッフ募集

「同窓会だより」編集部充実のため、能力・技術・体力・時間等で御協力いただける方を募集します。

年齢 不問

勤務 不定期

資格 経験・未経験は問いません。

待遇 たまに有志よりの差入あり。

応募 連絡先等を同窓会事務局「同窓会だより」編集部宛郵送。

編集後記

○「同窓会だより」の記念すべき第一号をお届けいたします。

○去年の今ごろは、他の役員の人と同様、自分が同窓会の役員となるなど夢にも考えず、ましてや、「同窓会だより」第一号の編集に携わることになるとは思ってもよらぬことでした。

○第一号のため、ややかたい内容のものが多くなりました。次号からは皆様の御意見をいただきながら、気楽に読める内容のものを多くしたいと考えています。

○本号の編集は、武井尚(70日文)

石田義明(75国) 岡田道程(76哲)

兼子順(77日文)が担当しました。